

令和4年度トヨタ工業学園卒業式 豊田社長あいさつ（代読“おやじ”河合満）

河合でございます。

卒業生の皆さん、ご家族の皆様、ご卒業おめでとうございます。

豊田社長は、

「現場に一番近い社長になりたい」と言われ、
開発や生産現場を、誰よりも大切に思ってくれております。

この学園の卒業式も、
毎年、本当に楽しみにしておられました。

どんなに心や身体がつらい時でも、
「卒業式だけは特別だ。どんなことがあっても絶対に出るぞ」
と言われ、出席されておりました。

さらに、卒業生一人ひとりに声をかけながら、記念スタンプを押していただきました。
そして、式の後には、
「今日も、みんなから元気をもらった」と、いつも笑顔でありました。

会社の社長というより、学園生のおやじとして出席しておられたと思います。

私も学園卒業生として、こんなに学園のこと、学園生のことを
思っただいていることを、本当に嬉しく、また、感謝をしております。

そんな気持ちを込めながら、豊田社長のお祝いの言葉を代読させていただきます。

<豊田社長メッセージ>

卒業生の皆さん、ご家族の皆様、ご卒業おめでとうございます。

また、ご多用の中、愛知県の大村知事をはじめ、
多数のご来賓の皆様にご臨席賜り、厚く御礼申し上げます。

今年は、卒業生だけではなく、
ご家族の皆様にも、会場にお越しいただいております。

そして、カメラの向こう側でも、多くのご家族が見守ってくださっております。

今年の卒業生は、コロナ禍で、保護者同席での入学式を実施できませんでした。

「何とか卒業式だけは、ご家族の皆様と一緒にさせてあげたい」。そう願っておりましたので、喜びもひとしおでございます。

卒業生の皆さん。

皆さんは「コロナ禍で入学し、コロナ禍で卒業する」ことになりました。あらゆる行動制限で、悔しい思いもしたと思います。

そんな中でも、自分以外の誰かのために、自ら考え、動いてくれました。

高等部の皆さんは、遠泳訓練ができない代わりに、静岡県の佐吉記念館から、愛知県の魔除けで名高い岩津天満宮まで、約 60 キロもの道を歩く訓練に挑んでくれました。

病弱だった佐吉が、体を鍛え、お母さんに心配をかけないようにと歩いた道です。皆さんも、同じ道を歩きながら、離れて暮らすご家族に想いを馳せたと思います。

ご家族だけではありません。

初日は豪雨、二日目は猛暑と、心も身体も疲れ果てている中、休憩場所を提供して下さった地域の方々もいらっしゃいました。

それを聞いた別のメンバーが、翌日、感謝の気持ちをお伝えしに行ってくれました。地域の方々の優しさが、皆さんの心と身体を動かしたのだと思います。

自分だけで、歩ける道ではない。支えてくださる方がいるからこそ、歩ける道だ。そう実感したのではないのでしょうか。

専門部の皆さんは、

下山で「もっといいクルマづくり」の最先端の現場を体験してくれました。

「乗る人を笑顔にしたい」。

その一心で、工具を手に、五感を研ぎ澄まし、クルマを鍛える。
そんな先輩たちの姿を見て、自分以外の誰かのために働く大切さを感じたと思います。

皆さんは「クルマ屋」です。
そして、皆さんが目指すのは、「町いちばん」のクルマ屋です。
自分以外の誰かを想う心。
それを、皆さんは、学園生活で学んでくれたのだと思います。

創業者の豊田喜一郎は、「従業員は家族」だと言いました。

皆さんの家族は、本当のお父さん、お母さんだけではありません。
皆さんがここまで成長できたのは、
指導員の方々が、父や母、兄や姉のように接してくださったからです。
指導員の皆様、ありがとうございます。

また、トヨタには「おやじ」と呼ばれる大先輩もいます。

ここにいる河合おやじは、誰よりも「現場」を知り尽くし、
トヨタが大切にしている思想、それを実現するための技と所作を、背中で教えてくれます。

「教える」という言葉の語源は、
「愛しむ（おしむ）」という意味であり、そこには「愛」があります。

間違っただけをすれば、本気で叱り、
迷惑をかけた時には、一緒に謝ってくれる。
そんな、家族のような仲間が、これからも皆さんを支えてくれるのです。

先月、私は、佐藤 新社長へのバトンタッチを発表しました。
その席上で、「次世代がつくる未来。それにかけてみたい」と、申し上げました。

私は、毎年、この卒業式を本当に楽しみにしております。
それは、若い皆さんが、トヨタの心を受け継いでくれていると
感じることができるからであります。

皆さんの姿は、勇気と力を与えてくれます。
だからこそ、私は、「皆さんがつくる未来にかけよう」と思います。

学園で学んだことを心に刻み、

これからも、自分以外の誰かのために、努力をし続けてください。

皆さんなら、大丈夫です。

最後になりますが、本日、ご参加いただいております
皆様のご支援をお願い申し上げまして、
私からのお礼とお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠に、おめでとうございます。

令和5年2月15日
トヨタ自動車株式会社
取締役社長
豊田章男